

ラグビーワールドカップ[®]2019[™]の開催に伴い排出された二酸化炭素約308 t-CO₂を市民・事業者の削減努力によりオフセットできました

横浜市では、「Zero Carbon Yokohama（ゼロ・カーボン・ヨコハマ）」^{※1}を目指す取組のひとつとして、平成30年7月より、ラグビーワールドカップ2019[™]等の大規模国際スポーツイベントへ向けた「**横浜カーボンオフセットプロジェクト**」^{※2}に取り組んでいます。

このたび、本事業に応募いただいた市民・事業者のCO₂削減分を用いて、ラグビーワールドカップ2019[™]の横浜市内での開催に伴い排出された約308t-CO₂のカーボンオフセットを行い、差し引き排出ゼロとなりました。

※1 Zero Carbon Yokohama（ゼロ・カーボン・ヨコハマ）：平成30年10月策定の「横浜市地球温暖化対策実行計画」において掲げられている本市の温暖化対策のゴール。今世紀後半のできるだけ早い時期における温室効果ガス実質排出ゼロ（脱炭素化）の実現を目指している。

※2 市民・事業者の省エネ等の取組による二酸化炭素（CO₂）削減活動を広く呼びかけ、そのCO₂削減分を大規模国際スポーツイベントのカーボンオフセット等に役立てる取組。

1 ラグビーワールドカップ[®]2019[™]開催に伴い排出された二酸化炭素量

308t-CO₂

開催期間：2019年9月～11月

開催試合数：6試合

排出量：**308t-CO₂** ※横浜市開催試合分のみ対象（横浜市が独自に算出）

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ① 運営者(主催者・ボランティア)の移動 | ② 観客の移動(横浜市内のみ) |
| ③ 選手スタッフの移動 | ④ 選手スタッフの宿泊 |
| ⑤ 競技場での電力使用 | |

※⑤について、11月2日開催の決勝戦における電力使用量分は、横浜市環境創造局による横浜市風力発電施設（ハマウイング）によるグリーン電力証書にて相殺しています。

2 市民・事業者による削減活動に伴い削減された二酸化炭素量

998t-CO₂

(1) 市民部門

取組期間：2018年7月～2019年11月末

参加人数：のべ34,954名（うち学校部門25,914名）

削減量合計：**約269t-CO₂**

※協力：横浜市地球温暖化対策推進協議会

(2) 事業者部門

取組期間：2016年4月～2019年11月末

参加事業者数：6者

（麒麟ビレッジ株式会社、イケア・ジャパン株式会社、株式会社イータウン、ニチハ株式会社、保土ヶ谷西口商店街、長者町7・8・9丁目商栄会）

削減量合計：**約729t-CO₂**

※使い切れなかった分については、他のイベントのカーボンオフセット等にあてます。

お問合せ先

温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長 岡崎 修司 Tel 045-671-2636